

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380695

研究課題名(和文) 日豪におけるエスニック・マイノリティ向け社会政策の社会的比較研究

研究課題名(英文) Sociological comparative study on social policies for ethnic minorities in Australia and Japan

研究代表者

塩原 良和 (SHIOBARA, Yoshikazu)

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：80411693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代先進諸国における移住者と先住民族に対する社会政策の双方を包含する「エスニック・マイノリティ向け社会政策」分析の理論的枠組みの構築を行った。そのためにオーストラリアと日本で現地調査を行い、それぞれの国における移民・難民/庇護希望者・先住民族政策の現状に関する実証的データを入手して検討した。その結果、さらなる国際比較のための示唆を得ることができた。その成果は国内外の学会やシンポジウム、学術論文等によって日本語および英語によって公表された。また成果の集大成としての単著の執筆を進めることができた。

研究成果の概要(英文)：In this study I tried to construct the theoretical framework for the comparative analysis on social policies for ethnic minorities, including both immigrants and indigenous peoples. I carried out field works in Australia and Japan and collected the data on policies for immigrants, asylum seekers and indigenous peoples. From the research I could get useful theoretical suggestions on further international comparative studies. I published and presented the results of the study as journal articles and conference presentations both in Japanese and English, and I will publish a monograph in the near future.

研究分野：社会学

キーワード：多文化主義 エスニシティ 社会政策 移住者 先住民族

1. 研究開始当初の背景

従来、オーストラリアにおいても日本においても、移住者（移民・難民・定住外国人）のための社会政策と先住民族のための社会政策は別個に研究され、両者を統合する理論モデルの構築は積極的に行われてこなかった。

研究代表者（塩原）は博士論文研究以来、オーストラリアの公定多文化主義に関する理論的・実証的研究を続けてきた。いっぽう、オーストラリア連邦政府は多文化主義政策の開始とほぼ同じ時期に、先住民族の「自己決定」を基本理念としつつ、彼・彼女たちの貧困や差別的状況を是正するための社会政策を開始した。しかし、移住者に対する多文化主義と先住民族に対する政策を結びつけてオーストラリアにおける「エスニック・マイノリティ向け社会政策」の全体像を明らかにしようとする先行研究は、その必要性は指摘されつつもほとんど存在しなかった。また日豪のエスニック・マイノリティ政策の比較の視点も不十分であった。

2. 研究の目的

本研究では、現代先進諸国における移住者と先住民族に対する社会政策の双方を包含する「エスニック・マイノリティ向け社会政策」分析の理論的枠組みの構築を試みた。そのためにオーストラリアと日本で現地調査を行い、それぞれの国における「多文化主義（多文化共生）」政策と先住民族政策の現状に関する実証的データを入手した。そして日豪比較を行いながら調査データを一般化し、理論モデルの構築を行った。さらに、こうした成果を調査期間終了後に単著として刊行することを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、先行研究・文書資料の収集と分析によって理論的仮説を設定したうえでオーストラリアおよび日本における現地調査を行い、そこから得られたデータを比較検討しながら理論的に一般化した。

平成 25 年度には、以下のような研究を行った。まず 2013 年 7 月から 8 月にかけてと 2014 年 3 月にオーストラリアにおける現地調査を実施した。現地調査では、国公立図書館での文書資料収集、現地研究者との研究交流や大学で開催されたセミナーへの出席、移民支援団体職員や現地住民への聞き取り調査を実施した。オーストラリアでの政治情勢の変化を受けて、当初の計画を若干変更して時宜に適ったデータ収集を行った。これらの調査と並行して、日本社会における外国人住民・先住民族に関する調査を行った。とくに琉球・沖縄における先住民族運動・自己決定

権の主張の動向に焦点を当ててデータを収集した。

平成 26 年度には、以下のような研究を行った。平成 27 年 1 月から 2 月にかけてオーストラリアにおける現地調査を実施した。現地調査では、国公立図書館での文書資料収集、現地研究者との研究交流、移民コミュニティリーダーへの聞き取りなどを実施した。日本国内においては、川崎市および静岡県浜松市における外国人住民支援事業関係者からのレクチャー・ヒアリングによって情報を収集した。また移民・トランスナショナルリズム研究に詳しい研究者を招聘して研究会を複数回開催することで、研究者間のネットワーキングを進めた。

平成 27 年度は、オーストラリアにおいて 2 回の補足調査を行うとともに、国内においても首都圏近郊の外国人住民に対する聞き取り調査を実施した。また沖縄で開催されたアジア先住民族連合の会議に参加し、ヒアリングや視察を行った。こうした調査と並行して、これまでの調査によって得られたデータの整理や検討を進めた。そして研究成果の集大成となる単著の執筆を進めた。

4. 研究成果

本研究の最大の成果は、先進諸国のエスニック・マイノリティ政策が新自由主義／グローバリズムの影響をうけることで、空間性が効率化の推進のための手段として動員される「空間／場所のツール化」が進行することを実証的に検証したことにある。本研究からは、この「空間／場所のツール化」には以下の 3 つのバリエーションがあることが示された。第一に、福祉国家体制のなかで制度化されたコミュニティを活用することで、人々を新自由主義的規範のもとに規律化していく「コミュニティを通じた統治」である。第二に、エスニック・マイノリティに対する公的サービスの負担を削減するための「コミュニティへのアウトソーシング／放置」である。そして第三に、エスニック・マイノリティの居住・就労の地理的分布を、労働市場の状況や行政サービスの効率性の観点から最適配置しようとする「地理的最適化」である。

また本研究からは、こうしたエスニック・マイノリティ政策における「空間／場所のツール化」の進行が、国民国家のシティズンシップのあり方自体を大きく変容させる可能性が示唆された。すなわち、ナショナルな領域的シティズンシップが分断され、「段階づけられた」シティズンシップと呼ばれる状況が顕在化するのである。こうした状況が実際にどの程度出現しつつあるのかを実証的調査によって確認することが、今後の課題として残された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

塩原良和「『人口問題』と多文化共生
『経済』の論理と『権利』の規範」『世界思想』43、2016年4月、36-40頁(査読無)

塩原良和「ネオリベラルな『場所(コミュニティ)ベース』のアプローチ オーストラリアのエスニック・マイノリティ政策の変質」『生存学』(立命館大学生存学研究センター)9、2016年3月、162-172頁(査読無)

塩原良和「グローバル化の時空間とエスニック・マイノリティ向け社会政策
『多文化主義と空間』研究に向けた試論」『法学研究』(慶應義塾大学)89(2)、2016年2月、163-187頁(査読無)

塩原良和「コメントに代えて 『移動』へのエンパワーメントとしての『定住』支援に向けて」『三田社会学』20号、2015年7月、65-68頁(査読無)
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20150704-0065

塩原良和「書評：樋口直人著『日本型排外主義』 在特会・外国人参政権・東アジア地政学」『社会学評論』66巻1号、2015年6月30日、66-67頁(査読無)

塩原良和「書評：友永雄吾著『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』」『オーストラリア研究』28号、2015年3月、84-86頁(査読無)
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009923199>

塩原良和「書評：安達智史著『リベラル・ナショナリズムと多文化主義 イギリスの社会統合とムスリム』」『ソシオロジ』第59巻3号、2015年2月、103-108頁(査読無)

Shiobara, Yoshikazu (translated by Christine Pelloquin and Luca Marin), "La classe moyenne multiculturelle mondialisée et la fragmentation de la citoyenneté," *Migrations Société*, Vol. 27, no. 157 (janvier-février 2015), pp. 111-131. (査読無)

塩原良和「効率化の世界で、生きる場所を管理される人々 オーストラリアの先住民族政策を事例に」『シノドス』(2014年1月20日)(査読無)
<http://synodos.jp/international/6664>

塩原良和「ヘイトスピーチと『傷つきやすさ』の社会学」『シノドス』(2013年10月15日)(査読無)

<http://synodos.jp/society/5846>

塩原良和「エスニック・マイノリティ向け社会政策における時間/場所の管理 オーストラリア先住民族政策の展開を事例に」『法学研究』(慶應義塾大学)86(7)、2013年7月、125-164頁(査読無)
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20130728-0125

塩原良和「対話を生み出す制度と実践」(書評リプライ)『三田社会学』第18号、2013年7月、160-165頁(査読無)
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20130706-0160

〔学会発表〕(計 10 件)

Shiobara, Yoshikazu, "Immigrants and Catastrophes in their Home Countries: "3.11" and Japanese Community in Australia," 立命館大学大学院先端総合学術研究科 2015年度国際コンファレンス「カタストロフィと正義」移民/難民とカタストロフィ」(於:立命館大学(京都府京都市)) 2016年3月7日

塩原良和「ネオリベラルな『場所ベース』のアプローチ：オーストラリアのエスニック・マイノリティ政策の変質」立命館大学生存学研究センターワークショップ「マイノリティをめぐる思想/政治：オーストラリアにおける白豪主義・ネオリベラリズム・アジアとの関係から」(於:立命館大学(大阪府茨木市)) 2015年10月3日

Shiobara, Yoshikazu, " 'Everyday multiculturalism' of Japanese immigrants in Australia," The 9th International Convention of Asia Scholars, individual paper session (Migration, Diaspora and Networks II), Adelaide Convention Centre, Adelaide, Australia, July 8, 2015

Shiobara, Yoshikazu, "Towards Transnational Imagination: Perspectives from Woomera, South Australia," The 22nd IFSSO General Assembly and International Conference 2015 (International Federation of Social Science Organizations), Special Session 2: On Critical Glocalization, (於:成城大学(東京都世田谷区)), May 29, 2015

塩原良和「対話的な多文化主義に向けて」新潟大学美術教育研究会・美術科教育学会共催シンポジウム 2015年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 新潟『多様化する社

会における映像メディアによる表現の可能性 オーストラリアの多文化主義政策に学びながら』(於：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」(新潟県新潟市))2015年4月18日

Shiobara, Yoshikazu, "Between freedom and neglect: Community-based approaches and neoliberalism in policies for asylum seekers in Australia," XVII ISA World Congress of Sociology, (International Sociological Association), Session of RC 31 (Sociology of Migration), Immigrant Integration in the New Immigration Destinations (於：パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)), July 14, 2014

塩原良和「他者を管理/放置する場所 オーストラリアのエスニック・マイノリティ政策とそのオルタナティブ」関西学院大学先端社会研究所 2013 年度シンポジウム「グローバル化と他者問題 現代日本・韓国・オーストラリアの排外主義」報告(於：関西学院大学(兵庫県西宮市))2014年3月1日

塩原良和「自由と放置のはざま オーストラリアの庇護申請者政策における『コミュニティ・ベース』アプローチと新自由主義」オーストラリア学会第8回地域研究会(関東例会)報告(於：早稲田大学(東京都新宿区))2014年1月25日

Shiobara, Yoshikazu, "Everyday multiculturalism and fortuity: A case study on multicultural screen literacy learning education in a university in Japan," The Fourth Annual Asian Conference on Media & Mass Communication (MediAsia2013) (於：ラマダホテル大阪(大阪府大阪市)), November 10, 2013.

塩原良和「『自律』を阻むもの オーストラリアの先住民族政策における時間/空間管理」関東社会学会第61回大会テーマ部会B報告(於：一橋大学(東京都国立市))2013年6月16日

〔図書〕(計6件)

塩原良和「オセアニアから見えてくるもの トランスナショナルな想像力へのレッスン」西原和久・樽本英樹編『現代人の国際社会学・入門 トランスナショナリズムという視点』有斐閣、2016年5月、241-258頁

塩原良和「制度化されたナショナリズム オーストラリア多文化主義の新自由主義的転回」山崎望編『奇妙なナショナリズムの

時代 排外主義に抗して』岩波書店、2015年9月、165-195頁

塩原良和「グローバル・マルチカルチュラル・ミドルクラスと分断されるシティズンシップ」駒井洋監修・五十嵐泰正/明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年6月、222-237頁

大澤真幸・塩原良和・橋本 努・和田伸一郎『ナショナリズムとグローバリズム 越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014年8月(全336頁)

塩原良和「外国につながる子どもの教育 シティズンシップの視点から」宮島喬・藤巻秀樹・石原進・鈴木江理子(編集協力)『なぜ今、移民問題か』(別冊『環』20)藤原書店、2014年7月、250-255頁

吉原和男編者代表、蘭信三・伊豫谷登士翁・塩原良和・関根政美・山下晋司・吉原直樹編『人の移動事典 日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版、2013年11月(全552頁)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
塩原 良和 (SHIOBARA, Yoshikazu)
慶應義塾大学・法学部・教授
研究者番号：80411693